

狩野川砂防
KANOGAWA

狩野川 彩・清・源・生

狩野川と共に生きる、 そのための「砂防」

古来、文明は必ず川のほとりに築かれました。川は土地を拓き、肥沃な土を選び、人々の暮らしに豊穡をもたらします。伊豆半島中部・天城連山を源流として駿河湾へ流れる「狩野川」も動植物を育む命の源となり、伊豆の地を人間が定住できる豊かな土地にしました。大見川流域に残る上白岩遺跡（伊豆市中伊豆）からは、人が縄文時代には狩野川のほとりに住み、川や自然の恩恵を受けていたことを知ることができます。

狩野川の水は田畑を潤します。清流を要するワサビやアユなどを育みます。それらは人々の糧であり、地域の特産品や産業ともなっていて、伊豆の暮らしや経済を支えています。また、狩野川に育まれる美しくも豊かな自然を求め、伊豆には多くの観光客が訪れるようになっています。

伊豆の地に住む人々は、暮らしや生命が狩野川によって守られ、育まれていることを知っています。人々は生活を守り、そして狩野川を守り、時には狩野川から自分自身を守る必要があります。

川と人、地域社会が共に生き、互いを守り、守られる仕組み、智恵、工夫、——それが「砂防」です。



狩野川とその支流



<表紙写真>本谷川上流にある溪流
滑沢溪谷の入り口近くにあり、井上靖碑の前を流れる本谷川の溪流です。このような名もなき美しい溪流が狩野川上流でたくさん見ることができます。このすぐ南（上流）には本谷川第3砂防堰堤があり、美しい流れを守っています。



紅葉の出会い橋

狩野川の彩



伊豆の四季にはそれぞれの色彩が宿ります。冬から早春にかけての梅、春の桜や藤の花。春は百花繚乱。天城山では新緑が芽吹き、夏には濃緑へと変わっていきます。やがて秋の訪れとともに山のそこかしこが紅葉し、錦絵のように色づきます。伊豆には天然の色彩があふれ、その彩りは伊豆市の中央を流れる狩野川をもふちどります。

しかし、美しい自然とその色彩も、梅雨や台風などで雨が大量に降ると一転します。狩野川上流では土石流や地すべり、かけ崩れなどが発生すると、木々はなぎ倒され、山肌が痛々しくもあらわになり、更に土砂が下流へと押し寄せると、一帯は泥と土の色に変わってしまいます。

それを防ぐため、様々な砂防事業としての取り組みを狩野川で展開しています。土石流を受け止める砂防堰堤（ダム）などの整備や、川の急流部や蛇行部の流れを緩やかにする工夫など。「砂防」という言葉や取り組みを目にするのも耳にするのも稀かもしれませんが、砂防事業は地域の大切な美しい景観を守り、また私たちの生活基盤を守っています。



修善寺自然公園の桜



新緑に包まれる修善寺山門



修善寺自然公園のもみじ林



冬の天城山

境川砂防堰堤
狩野川支流の境川（土石流危険渓流）の守り手・境川砂防堰堤は、「桜の里公園」（伊豆市湯ヶ島）の入口にあります。眺望の良い景勝地のため、堰堤の表面も間伐材で覆い、景観に配慮しています。今やすっかり周辺の自然に溶け込んでしまっている堰堤ですが、下流の山里の守り手役をしっかりと果たしています。



狩野川の清流

清

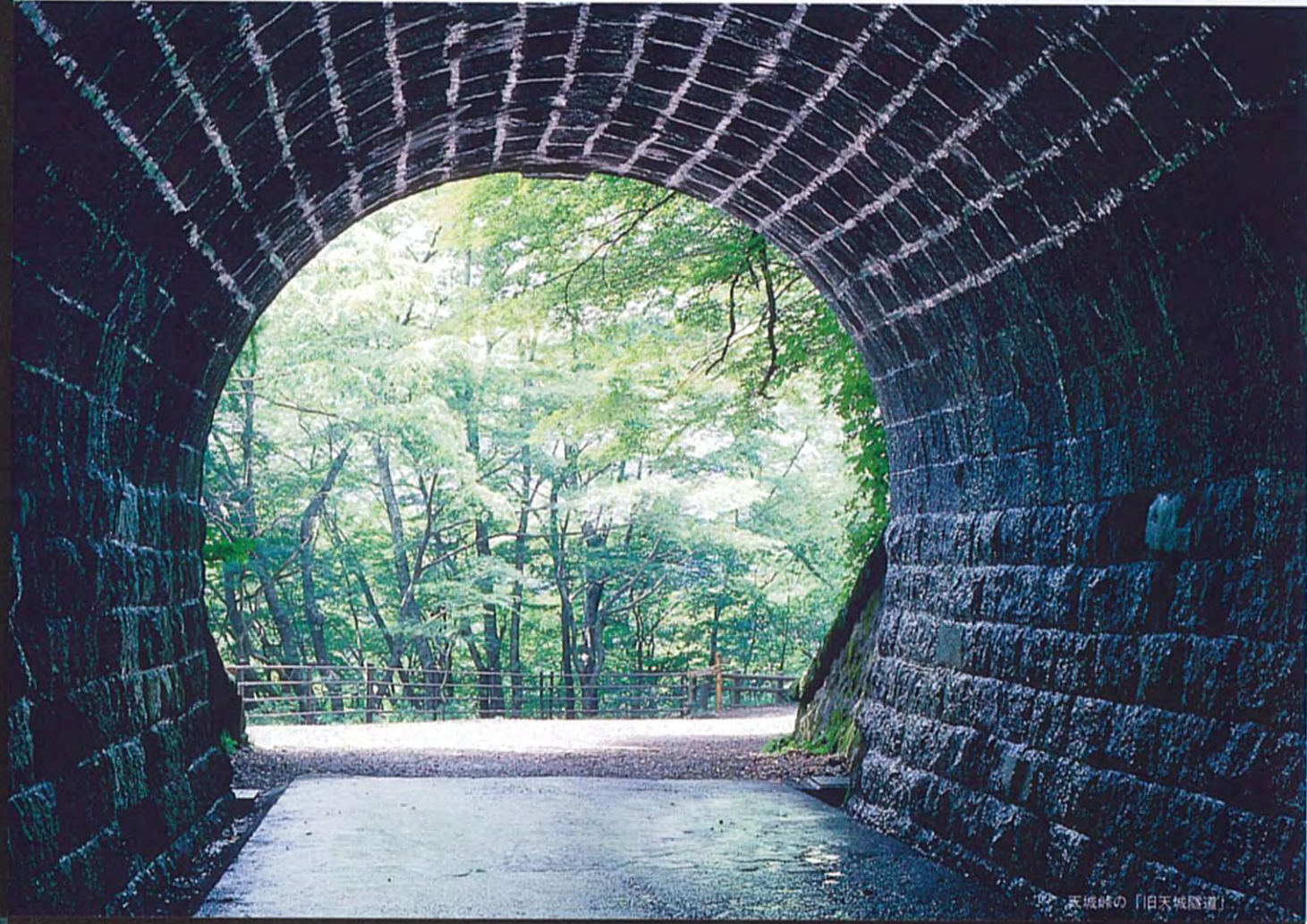
狩野川の水は清く、アユやアマゴが生息し、上流ではホタルも見られます。清流と渓谷が織りなす景勝地をはじめ、有名・無名の美しい滝を数多く見ることができます。狩野川の水は伊豆の各所にある美しい景観の創造主であり、希少な生き物たちの生活空間です。狩野川はこれからも清流を生みつけ、生き物、人間たちに恩恵を与えてくれることでしょう。

しかし、時にはこの狩野川の清流が、激流となって生き物たちに猛威をふるう存在になります。雨が降ると川の水量は増え、清流は濁り、危険だから誰も川には近づきません。1958年の狩野川台風では、上流の土砂が流域の各地を襲い、死者・行方不明者が853名に達する大惨事になりました。それでも、人々は伊豆の地に住みつけ、川と共に生きています。それは狩野川の危険な面を知っているように、恩恵の源でもあることを知っているからです。

砂防事業は危険だからといって川や自然を排除するような取り組みではありません。川と共に生きるため、川の流れを守り、川の危険な流れから多くのものを守る。それが砂防です。



梅木第4砂防堰堤
 狩野川支流の梅木川は土石流危険渓流に指定されており、上流には巨石や立木が多くあります。この梅木川の守り手・梅木第4砂防堰堤は、巨大な鉄格子で上流から流出した巨石や土砂、流木を受け止め、一方で下流や河口に恵みをもたらす砂礫などは清流とともに通り抜けていく仕組みになっています。

天城峠の「旧天城隧道」



萬城の滝

狩野川の源

源

狩野川は天城山系をその源とします。雨が降ると天城の山の木々や土中などに豊かな水がたくわえられ、山は常にその一部を狩野川によって私たちへ供出してくれます。山の各所で湧き出した水はいくつもの筋をたどって一つの川になり、それら支流の川が狩野川本流に合流します。水はやがて海にたどりつき、海の一部となります。海の水が海面から蒸発して水蒸気になると、雲を形成し、雲は山にぶつかり、雨になって降りそそぎます。もちろん天城山にも。こうして自然のサイクルはまわりつづけています。

伊豆半島は海に囲まれており、国内でも有数の多雨地帯です。半島に並ぶ山々から湧出した狩野川の水が海まで流れ落ちる距離は短く、その勾配（傾斜）も急です。また、天城山をはじめとする火山帯でもある伊豆半島は、比較的新しい火山灰が降り積もってきた、たいへん崩れやすい地質になっています。つまり、崩れやすい地質に、豪雨が降りやすい気候、そして流れの急な川と、伊豆は土砂災害の発生しやすい条件を有しています。

狩野川を守ることは天城の山々を守ることもでもあります。砂防事業は川のみを対象に取り組むものではなく、山を守る取り組みでもあるのです。



成巖にみちた天城最大のスギ「太郎杉」



天城山系の一角・西天城高原



天城山のブナ原生林

徳永床固工群
 狩野川支流の徳永川の守り手・徳永床固工群は、火山噴出物等のもろい地質で形成されている河道を安定させる施設です。川岸の植生をできるだけ残しながら、川床や川岸を固める護岸整備が行われています。また、自然石を用いるなどして景観や生態系に配慮した工夫も施されています。



狩野川の生命と生活

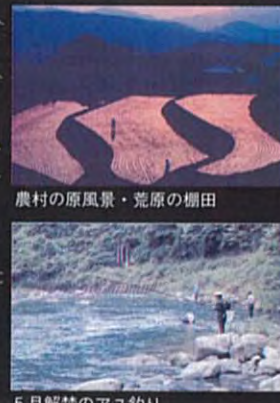
生

狩野川は私たちの暮らしを支えています。この地に住む人々は昔から、狩野川をとりまく自然を生活の基として暮らしてきました。

かつて人は、食料となる動物を追って移動しながら生活していましたが、豊かな土地で定住するようになります。比較的温かく、雨が多く、川もあった狩野川のほとりも、そんな豊かな土地の一つでした。やがて人々は狩野川の水を引き、田畑を拓きます。その光景は今でも伊豆の各所で見られます。狩野川の清流によりアユは遡上し、ワサビの栽培も可能で、伊豆はアユ釣りやワサビの生産地としても有名です。多量の雨は火山帯にたくわえられ、温泉を湧出させ、伊豆は名湯の地でもあります。そしてこれら地域の特産や温泉、天城山や狩野川の育む自然の豊かさ、美しさを求め、多くの観光客が伊豆を訪れます。伊豆の地域資源、生活基盤、経済基盤の多くが狩野川より派生したものであり、地域の暮らしは狩野川によって支えられてきました。

狩野川と共に生きていくこと。それは、狩野川から恩恵を受けることであり、自然のサイクルを尊ぶことであり、また時には狩野川がもたらす自然の脅威、災害から自分たちを守ることもあります。砂防事業とは狩野川を守る取り組みであり、地域や人々を守る取り組みでもあるのです。

猫越第4砂防堰堤
 狩野川支流・猫越川の守り手・猫越第4堰堤は、天城国有林内に位置し、上流部で発生する小規模な崩壊や川の中に堆積する土砂流出への対策として整備されました。猫越川に生息する魚が堰堤を通り越せるよう魚道を設置し、コンクリートを黒く着色するなど、自然や景観に配慮したつくりになっています。

5月解禁のアユ釣り

湯ヶ島温泉街

皮子沢のワサビ田

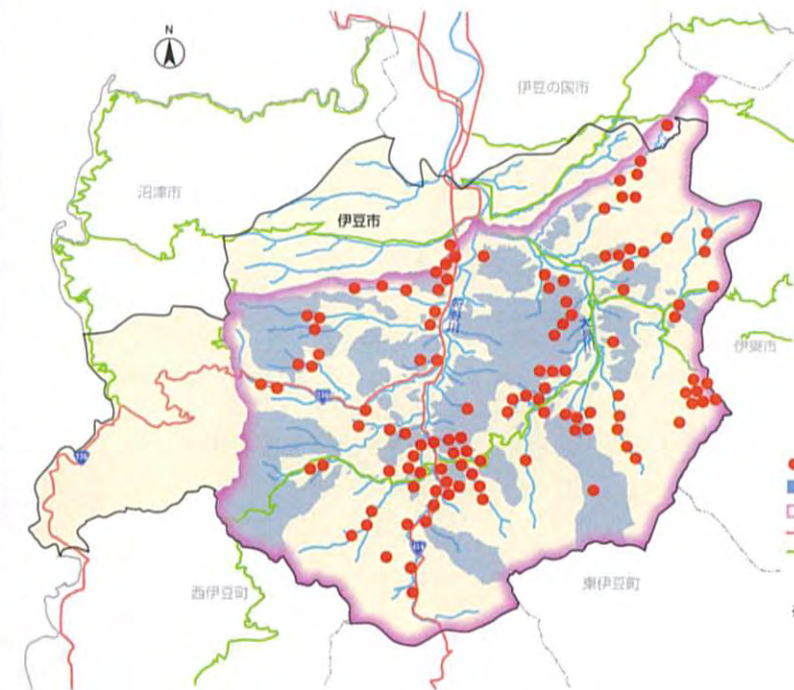


狩野川を守り、 狩野川から守るために

昭和33年に伊豆半島に上陸した「狩野川台風」では、狩野川上流の土砂が流域各地を襲い、死者・行方不明者が853名に達する大惨事になりました。半世紀近くを経た今、この災害を土木技術が発達した現代では有り得ない被害、自分の住む所には関係ないと捉える人もいるかもしれませんが。

本書では砂防施設を4基のみ紹介していますが、狩野川台風以後、国土交通省は狩野川流域に堰堤(ダム)・床固工などの施設を115ヶ所整備しています(平成17年4月現在)。それでも今なお、流域には多くの「土石流危険渓流」があり、それが狩野川の一つの側面でもあることを、川と共に生きている私たちは決して忘れるわけにはいきません。

豊かな土地を守り続け、狩野川台風の悲劇を二度と繰り返さないためには、砂防施設などのハードの整備とともに、避難体制などのソフト面の整備も不可欠です。そして何よりも、私たち自身の砂防に対する認識、そして狩野川への関心が必要とされています。



※「土石流危険渓流」とは、土石流の発生によって被害が予想される渓流です。土石流発生の危険性は、国土交通省が定める土石流危険渓流調査要領に基づき、地形・地質、過去の災害などから判定します。平成11・12年度に行った調査では、狩野川に341の土石流危険渓流があります。



写真提供
 伊豆市市長公室：「上白岩遺跡」
 修善寺温泉旅館協同組合：「修善寺自然公園の桜」
 静岡県・静岡県観光協会：「修善寺自然公園のもみじ林」「滑沢溪谷」「天城神の旧天城隧道」
 塩谷為善氏：「冬の天城山」
 伊豆市観光協会天城支部：「出会い橋前のほたる公園」
 伊豆市天城湯ヶ島支所：「天城山系の一角・西天城高原」「農村の原風景・荒原の棚田」

国土交通省沼津河川国道事務所
 ● 工務第二課 055-934-2006
 〒410-8567 沼津市下香貫外原3244-2
 ● 八幡出張所 0558-83-0157
 〒410-2505 伊豆市八幡262-1
 ● 湯ヶ島出張所 0558-85-0374
 〒410-320 伊豆市湯ヶ島131-1
 E-mail : numazu@cbr.mlit.go.jp
 http://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/